

## 第6回お城を中心としたまちづくり懇話会 意見概要

日時：平成21年8月19日（水）

午後1時30分～午後3時40分

場所：勤労福祉会館 3階 研修室

- 開会
- 都市整備部長挨拶
- 座長挨拶
- 懇談内容

### 【説明】

パブリックコメントの意見の概要と市の方針（説明者：公園みどり課）

- ・ 計画の基本的考え方について
- ・ まちづくりの現状と課題について
- ・ 実施計画について
- ・ 歴史文化施設について

### 【意見交換】

委員：「都市計画マスタープラン（以下：都市マス）を紹介しているが、昭和56年～61年にもまちづくりについて広く市民の意見を聞いている筈だが反映しているのか」という意見に対して、市の考え方の方向性のような回答ではなく、市として、出された意見を何処に反映して、どう取り組んでいくのかを回答すべきではないか。

都市整備部長：都市マスは、古い制度ではなく、平成13年に作成された計画である。今回の意見は、それ以前からの市の取り組みについても、都市マスを反映しているものかという質問ではないかと思うが、そのことについては、都市マスがない時代でもそれに変わる計画はあり、その都度それらの計画に意見等は反映してきていると思える。また、直接的に反映されていなくても、都市計画というものには20年というスパンの中で、まちづくりを行っていくものであるため、その中で対応していくこととしている。現在、都市マスの見直しを行っている。その中で、また新しいものが出てくるのではないか。

委員：市の方針を一貫して進めるものは進めるとして、市民の意見を反映させていくものや過去の反省を取り入れることなどについて、伝えていくことが重要ではないか。例えば、街路樹ならば、「計画的に植えた樹木の落葉がひどいので、新たに整備するところは、樹種の制定に配慮する。」など、過去の反省すべき所は

どこなのか、どう変えていったら良いのかをしっかりと市民に伝えていくことが必要ではないのか。そのようなことをすることで、市民も行政の行っていることに納得することもあるのではないのか。

委員：8番の意見者は何を言おうとしているのか。なにか桜山参道地区に新しいものを作ることが良いと言っているのか。

事務局：「新しいものを建てる際には、計画的に今の桜山の商業を活かしたものを建てるべき」ということを言っているのだと考える。

委員：パブリックコメントの際、自分宛に手紙をくれた方がいた。その内容は、「神社として、戦前の参道に戻す考えがあるのか。また、商店街をどうするのか。」ということだった。また、その方の個人的な考えとしては、「参道を一度開放し、参道地区の建物を取り壊し、その一部に歴史文化施設とお城を活かせるような、商店街を形成することが良いのではないのか」という内容の意見が書かれていた。

座長：本日の資料では、パブリックコメントに対しての市の考え方の方向性ということでもまとめられているが、より具体的な内容になったときに、本日の懇話会の内容や市に考え方が違ってしまうことでは良くないと考える。正式な回答が公表されたときに、改めて意見交換の場は引き続きあるという認識で良いか。

公園みどり課：パブリックコメントへの市の考え方については、寄せられた意見と本日の懇話会からの意見の両方からまとめ、8月中を目途に公表していく予定である。その際、取りまとめに向け、より具体的な表現について等の提案があれば、本日以降でもかまわないので頂ければ非常に助かる。

## 【説明】

パブリックコメントの意見の概要と市の方針（説明者：公園みどり課）

- ・ 歴史文化施設前庭整備計画について
- ・ ヒマラヤシーダについて

## 【意見交換】

委員：前回の懇話会の時に、カツラを活かせないのかという質問をした。その説明として、地下駐車場への影響、根による園路等への影響（凸凹になっている）説明を受け、伐採することには納得した。ただし、今後、前庭整備において、新しい樹木を決める際には、盛岡の気候や町、盛岡というものを良く知っている地元の造園業の方の意見を取り入れて欲しい。また、40年後に、繰り返しの無いような計画を練って欲しい。

委員：盛岡ロータリークラブ（以下：盛岡RC）は、カツラの伐採について納得しているのか。

委員：盛岡RCの代表ではないが、会員として盛岡RCの見解をご報告する。

前庭整備の現地説明会には、盛岡RCから3名、他のロータリークラブから2名くらい参加しており、他のロータリークラブの方がカツラ等について意見を言っていたが、それが盛岡RCの意見ではないことを補足しておきたい。盛岡RCには70数名の会員がおり、様々な意見があるので、一つにまとめるのは難しい。そのような状況において、会員の中には、非常に反対をしている者も数名いるが、盛岡RCとして、パブリックコメントに意見書を提出した時点で「カツラについての問題は終わり。これ以上のことはしない」ということでまとまった。何本切るかとか、新しい施設ができるためにはやむを得ないのではないかなど意見も出されたが、「あとは市に任せる」ということになった。どうしても意見を言いたい人は個人的に市に要望することとなった。

一つだけ要望するならば、カツラの寄附の際に設置した名板を再整備のときに、目立たない形でかまわないのでカツラの付近に再設置して欲しい。盛岡RCはもともと目立たないようなデザインで名板をおかせてもらっているので、「さりげなく」置いて欲しい。

座長：「さりげなく」というのは、かなり高度だと思うが、盛岡RCの意向に沿う形で設置して欲しいと私も思う。

公園みどり課：委員の説明に補足させてもらいたい。盛岡RCの説明の際には、前庭整備の基本テーマは理解頂いたと感じている。市としては、カツラを頂いたときの思いを大切に、整備を実施する際には、前庭の基本テーマと検討し可能な限り保存していきたいと考えている。

委員：カツラについて盛岡RCへの説明があったことは理解した。ただ、今回のように、伐採について、いきなり報道されるので市民はびっくりする。順序立てて説明していれば、ここまでの騒ぎにならなかったのではないかな。今後、手順に配慮して欲しい。例えば、カツラを伐採しなければならなくなったとしても、盛岡RCには理解を得ていることを市民に伝えていって欲しい。

委員：ヒマラヤシダダについて、ランドマークにすることで余計に倒木の危険性が出てくるのではないかという意見をよく聞く。実際のところはどうか。

公園みどり課：専門的知識を有するコンサルからの報告書では、倒木の可能性についてはどうかということではなく、木の残し方についてのランドマーク案を提案してもらった。その中で、先行伐採した1本について、根の調査を行った。その結果からは、ランドマークとして残す場合でも、芯止め、剪定を行うことで倒木の懸念を払拭できるのではないかという報告を受けた。

委員：市がランドマークとして残す案を出したということは、科学的にも倒木の危険性が無いことをしっかりと証明すべきではないのか。

都市整備部長：安全性の確保については意見を頂いている状況で、事務局側としての立場もあるが懇話会委員として思うことは、「賑わいのあるオープンスペースの確

保」も必要だが、安全性の確保は確かに重要なことであると思う。その倒木の危険性について、科学的にということになると、根の浅根性、桜木小学校の倒木事例から考えると、どう対策をしていくかをしっかりと説明していかなければならない。また、ランドマークとして残すとしても、樹高を15m程度に抑えるための芯止めや、剪定が必要であることを説明していかなければならない。ただし、そうすることで、樹形が当然乱れるわけで、見るに耐えかねる姿になってしまうことに対し苦情等が予想される。しかし、それは安全性の確保のためであることを丁寧に説明していかなければならないと考えている。

また、岩手公園地下駐車場にヒマラヤシーダが乗っていることが問題である。これは科学的にも分かることだが、通常4tもの樹木が躯体に上に乗ることは躯体にとって良いことではないし、当初もそのようなことは想定されていないはずである。

委員：なぜ、これまで59本のヒマラヤシーダがあったことが良くて、これからはダメなのかを具体的に理由があることを説明していくべきである。実際、今日の掲示資料（現地説明会の際の資料）のように、グラフィックデザインができるのならば、将来像が分かるような絵を様々用意し、市民が納得していけるような形で広報するべきである。いくつかのケースを想定して客観的なデータを提示して、科学的に納得させていくべきである。例えば、根の状況を図にして、地下駐車場への影響などを説明するのもひとつではないか。

委員：知り合いの材木屋の方に、是非機会があったら発言して欲しいと言われていたことがある。「材木として伐採した木を利用するのならば、真夏に切るのではなく、冬に切るべきである。材としての価値が下がってしまう。」と。

また、前回の懇話会で伐採したヒマラヤシーダは木材として活用を図ると説明を受けた。並木として50年間で使命が終わったとしても材木として活用されることで新たな生が吹き込まれることは良いことであり、そのことをもう少し丁寧に説明して欲しい。そして、その木材を市民が手に入れることができるのか。できるならばその方法についても周知して欲しい。

都市整備部長：まず、先行伐採については、工事工程上の仕方がなく、6月初旬に実施した。また、材木の提供については、市だけで利用するのではなく、市民にも提供できるかどうか検討していきたい。ただし、これまで木が受けてきた負荷により、乾燥前の状態でひび割れがあるものがある。木を扱う専門の製材の方も話していたが、そのようなものは、公園の四阿程度なら大丈夫だが、住宅の梁や柱といった主要部材への使用はいかなものかといわれた。今後、使用方法について検討が必要である。

座長：今回のような計画を策定する場合、目に見える成果を求めることが多いが、都市計画やまちづくりは、実は年月がかかる。実際に整備したときには、疑問に

思うことが、実は10年後を見越した事業であったということがある。なので、そのことを市民側にも理解が必要だと思う。また、そのような状況を市民側が見守れる環境を作るためにも、分かりやすい情報公開であったり、意見交換の場を作ったりしていくことが大切だと思う。

**【説明】パブリックコメントの意見の概要と市の方針（説明者：公園みどり課）**

- ・ パブリックインボルブメントについて
- ・ その他（市の計画全般について）

**【意見交換】**

委員：前回の議事録を読んで考えてみたが、パブリックコメントの内容を読んで面白いと思ったことは、皇居のまわりは、信号のない良いマラソンコースで、健康に気を遣われるひとにとっての憩いの場となっている。

5番の意見について、「観光者向けの公園であることもさることながら、市民・子供の憩いの場をなくして、活性化は図れないのではないか。」という意見も是非積極的に考えていくべきではないだろうか。これに対する回答が、中心市街地活性化基本計画との連携を図っていくとあるが、国交省のかわまちづくり計画などとも連携していければいいと思う。あとヒマラヤシーダの活用方法はもう決まっているのだろうか。

事務局：伐採した15本については、用材として一次加工をしている。15本から取れた材料については、公園等の四阿が約3棟分できるくらいの量がある。しかし、ひび割れ等があるため、実際四阿等の構造材に適するかどうかを見極めた上で活用していきたい。

事務局：若干付け足すと、数量と相談してということにはなると思うが、活用目的をお持ちの方には材料を提供するということまで踏み込めれば良いと思う。学校の教材に使って頂くとか、町内会活動の際の材料として有効利用して頂ければ良いと思う。

委員：盛岡の歴史を見てきたヒマラヤシーダで看板などを作ってみてはと思った。公園のサイン整備の話があったが、今現在の景観の写真のサインを建てて伝えていく、歴史を残していくことも大事だと思う。

委員：基本計画は9月に策定されるということだが、パブコメの意見を見ていると、お城を中心としたまちづくりが、樹木のまちづくりになってきたような気がする。市民の関心が高かったのだと思う。木の伐採が無ければ逆に関心が無かったのかと思う。懇話会の当初の考え方としては、中津川、前庭の一体感、観光客だけでなくいかに市民が集って楽しめる場所になるのか、城跡公園をいかに

有効利用するか、桜山参道地区を今後どのように変えていくのか、利活用していくのかということだと思っていたのだが、途中から樹木の話になってきた。確かにそれも大事だと思うが、ただお城を中心としたまちづくりなので、9月に策定されるときには中津川と前庭が一体感を持ってイベント等ができるような、また観光客や市民が楽しめる施設として、お城のほうにも足を向けてもらい、そしてそれらの楽しむ場所に付随して桜山参道地区があればいいと思っている。新聞等を見ていると、樹木に熱心な人がいると再認識した。全体のことを考えるように市民にも説明していければと思っている。

委員：歴史文化施設の中身は、世界の中で盛岡にしかない、盛岡しか味わえないワクワク感であったり、ドキドキ感であったり、それがまったく見受けられない。いい町、洗練された町であるためには、若い人たちの間口の持ち方をしっかり作っていないと、ここにいる人だけが良いといっても伝わっていかないと思う。今の歴史文化施設の中身は、全国どこにでもあるような歴史文化施設にしか見えない。世界に発信できたらもっと楽しいと思う。そういう部分を一緒にやっていきたい。

委員：私は歴史文化施設の委員になっているが、1回目の会議をいつ行ったのか記憶がないくらい遠い話なのだが、その後まったくそのような会議もたれずに、勝手にどんどん進められているようにしか見えない。それは木を勝手に切ってしまうのと同じことだと思う。

委員：二点だけ。一点は桜山地区について。報告書に書く場合は中心市街地として、公園に隣接する地区として、神社の参道としてどういう利活用が市民のためになるのかということで前向きな表現にしていきたい。

もうひとつは、お城を中心としたまちづくりのパブリックコメントなのに、パブリックインボルブメントの意見がこれだけ多いというのは注目すべきことだと思う。ヒマラヤシーダの件についてもそうだが、知らないところで動いているということに憤っている市民がいる。それで木を切るということが相乗効果になってああいうことになったと思う。きっちり説明して理解してもらうことが必要。合意形成ということに市民は不満を持っている。

市役所の中ではほとんど意識されない言葉だと思うが、商売の上で「ワクワク」や「ドキドキ」ということは人を集めるための一番大事なキーワードでもある。それをどうやって作り出すのかということを商売人は常に考えている。市役所と「ワクワク」や「ドキドキ」を作り出すプロとで一緒に話し合って作り上げてほしい。

いかに多くの市民に理解してもらおうか、市民が持っているいろいろな財産・知恵をどうやって市民からもらって有意義な計画を立てるか。今までと違う方法で市民と一緒にまちづくりをする工夫をお願いします。

座長：通常，懇話会ではなかなか傍聴の方から意見を聞くということはないが，せっかく来ていただいているので，何かありましたらどうぞ。

市民：パブリックコメントを出したので来ました。

今子供たちに人気の『たらしら』という曲がある。その一番の歌詞を聴いていると、『花時計の前を通過して木陰を抜けると中の橋』という歌詞がある。その木陰が無くなる，それに対する責任を，木を切る人みんなでとらなければならないと思っている。先日の説明会にも参加して，伐採に関して一部納得している。何かそれに変わる前庭になって欲しいと思う。一方で建物(歴史文化施設)のデザインは文字通りのハコモノという感じ。あのデザインがどこで決まったのか。とってつけたハコモノを目隠しするためにも木は残していたほうが良いのではないか。とき既に遅し。あそこはあきらめている。

ただ私がパブリックコメントで書いたものは木のことでなく，物事を決める手順について。パブリックインボルブメントについて半分くらい私が書いた。パブリックインボルブメントをするための基準が曖昧である。歴史文化施設は20億円を使って盛岡のシンボルになるようなものをつくるのに，なぜパブリックインボルブメントを採用しないのか。パブリックインボルブメントを採用する基準を作らないとこういうことがまた起こるのではないか。これは税金を使ってやることだと思うので，基準を明確にして進めて欲しい。

都市整備部長：パブリックインボルブメントについては，要綱を定めている。その中の手法のひとつとしても挙げられているし，歴史文化施設も検討組織を立ち上げてきた経緯も聞いていた。

ただし，市民意見の取り込みということに十分ということはないと思う。行政に携わるものとしては，ひとつの事業を予算に従ってやる，必要最小限のことをするとすれば，ある程度時間的な中で仕事をしていく必要があり，その点も不十分な点として伝わっているとも否めないと思う。今回そういう中であって，多少場当たりの部分があったにしても，私どもとしては極力市民の方々に説明し，意見をいただく，また直すべきところは直すといったところを工夫していきたいと考えている。市全体の話とすれば，その要綱についてどれだけ踏み込んでいけるかという課題はある。市の行政上は議会制ということもご理解いただきたいと思っている。そのようなことをトータルで判断してパブリックインボルブメントのあり方についてご意見いただければと思う。

先ほど委員から事細かなあり方について意見をいただいたし，少しずつ盛岡市の中でも変わってきていることは事実。一例を挙げると，PI(パブリックインボルブメント)の手法の一つに数えられているワークショップ。これも少しまではワークショップって何ですか，という時代から，今はもう当たり前になってきている。それからグラウンドワーク。これも，いろいろなところで，特に

公園を中心として、それが普通のやり方として浸透してきており、少しずつ盛岡市は進化してきているので、皆さん見守っていただければ、今回の意見も貴重なご意見として参考にしていきたいと思う。

委員：この懇話会に参加させていただいているが、中心市街地に関係するいくつかの懇話会というのがあると思う。私はお城を中心としたまちづくりの懇話会に出ているので、それに関しては分かっている範囲でお答えすることはできるけれど、それを聞きたい人は歴史文化施設についても聞きたい、「かわまちづくり」についても聞きたいという。そうするとその部分は分からない。

懇話会というのはいくつもあるが、どうしても縦割りで、他のところはどうやっているか分からないので、ワイワイガヤガヤ大会議みたいな、合同会議みたいなものを作って、ひとつの中心市街地活性化とかお城とかといったことを公開でやれたら、もっとお互いがお互いを知ることもできるし、そこでまた新たな意見が出てくることもあると思う。でも、今の状態で大体決まったところでまた新たな意見が出て、どうにもなるものではないと思うが、ワークショップまでいかなくとも、そういうものがあってもいいと思う。

また、都市整備部長が話したとおり、市としてはホームページに載せる、広報に載せるというようなことで、ある程度の手は打っていて情報を公開しているが、果たしてそれにどれだけの市民が食いついてくるのかという問題もある。以前2年位かけて、もりおかブランドを立ち上げて、そのお披露目のフォーラムのようなことをしたが、結局会場には何十人しか来なかった。また、どうやって市民に浸透していくかということは非常に難しいと思う。これは、自分が商売をやっている、告知というのは一番難しいと思う。しかし、そのところが盛岡市でも変わってきているということで、どうやったらみんなに分かってもらえるかということ悩んで欲しいと思う。

事務局：本日の懇話会で出された意見で、8月中に市の考え方、方向付ける内容と合わせて回答案を整理したいと思う。9月ごろを目途に、お城を中心としたまちづくり計画案の取りまとめを行って、これを皆さんにお知らせする。まちづくり計画の役割あるいは懇話会の任期といった議論の中に実は任期をおいていない。「計画そのものについては段階的に進めていくので、何度も必要な時点で議論をしながら育て上げましょう」という趣旨で、お城を中心としたまちづくり計画を位置付けている。

今後の進め方としては9月までに計画案を取りまとめているが、ここからは具体的な事業で動き出すものも一部にはある。具体的に言えば前庭整備。これはお城を中心としたまちづくり計画の中のひとつの部分の短期的な事業の一つとして今年度からスタートするという。計画と事業が同時に進行しているので誤解を招いているが、改めて、前庭整備に関しては今年度から当懇話会のご

意見を踏まえまして、その基本的な方向性を基に事業をスタートするという  
ことにしている。事業をスタートする際には、公園部分の舗装材をどういった材  
料を使った方がいいのか、あるいは周辺の緑地と整合するような色彩についても  
工夫したほうが良いだろうかといった意見の問いかけ方を工夫してみたいと思  
う。これは工事説明会という形になるのか、どういう形になるのか、あるいは  
その時期を何時頃にした方が良いのか、といったことを含め、現時点では白紙  
だが、事業に着手する段階において、その内容を併せて皆さんにお知らせし、  
いろいろな手段を持って意見・ご指摘をいただく機会をぜひ設けていきたいと  
考えている。それに関連して、今回の当懇話会をもって計画案を取りまとめる  
こととしているが、第1回目から第6回目まで出た懇話会での概要も市のホーム  
ページに載せて皆さんにお知らせしたいと考えている。唐突に計画を提示され  
たとお思いの方もいらっしゃると思うが、そうではなくて、(盛岡城跡公園  
の)愛称問題の段階から盛岡城跡については意見をいただいているという背景  
を踏まえ、懇話会でお話しながら積み重ねてきたという思いがあるので、その  
プロセスを皆さんにお知らせしたいと思う。なお、実行するにあたっては、そ  
の都度聞き方は変わらと思うが、聞きながらやりますといった情報発信の工夫  
をしていきたいと考えている。

- 事務連絡
- 閉会